

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成29年3月23日(2017.3.23)

【公表番号】特表2017-505386(P2017-505386A)

【公表日】平成29年2月16日(2017.2.16)

【年通号数】公開・登録公報2017-007

【出願番号】特願2016-539271(P2016-539271)

【国際特許分類】

D 0 6 M	11/77	(2006.01)
F 2 4 F	7/08	(2006.01)
D 0 6 M	11/11	(2006.01)
D 0 6 M	15/37	(2006.01)
D 0 6 M	15/263	(2006.01)
B 0 1 D	53/26	(2006.01)
D 0 6 M	101/32	(2006.01)

【F I】

D 0 6 M	11/77	
F 2 4 F	7/08	1 0 1 A
D 0 6 M	11/11	
D 0 6 M	15/37	
D 0 6 M	15/263	
B 0 1 D	53/26	2 3 0
D 0 6 M	101:32	

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月17日(2017.1.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

事実、すなわち本発明の範囲内で、当該の膜8は、最終的に排ガス流2中に存在するガスのそれぞれの排ガスに対して、それらのガスが供給空気流1中に進入できないよう、非透過性である。それに対して、該膜8を介して、排ガス流2に含まれる湿気を拡散させて、供給空気流1を加湿することができる。さらに、フィラー中で合成樹脂バインダー又は例えば、アクリレートのような接着剤を利用することによって、膜8を構造化することができる。これによって、膜8の表面が全体として増大し、そして、それ故、湿気の移動を最適化することができる。事実、この例において膜8は、断面においてジグザグのプロファイルを有している。さらに、均圧化することなく、該膜8が、二つの気流1、2の間で2,000Pa超の圧力差を可能にすることが測定によって示されている。それによって、排ガス流2から、供給空気流1中へ排ガスが移動して移行する危険性がない。むしろ、当該膜8は、記載した湿気の移動にだけ透過性である。